

<ふれあい訪問>

病氣療養中の仲間をたずねて

岡山県本部 森脇良明

8月17日（木）入江・森脇の2名は、病氣療養中の南早百合さんの自宅（備前市日生町）を訪問しました。JR 日生駅で入江さんと9時20分に待ち合わせをし、はやる気持ちを抑えながらも、約束より30分も早い9時30分ごろ到着しました。早すぎたかなと思いながら、お家の方を見ると、南さんがリビングのテーブルに座っているのがわかりました。大きく手を振ると分かったらしく、手を振りにっこり笑って私たちを出迎えてくださいました。南さんのお母さんは残念ながら、デイサービスに出かけてお留守でした。

南さんは足を片方づつ（両足）2回骨折し、備前市立日生病院と岡山大学病院で手術しました、岡山の榊原病院で心臓にペースメーカーの埋め込み手術をしていたので、たいへん心配していましたが、思ったよりもずいぶん元気そうで、お医者さんからは骨そしょう症のため、杖を使うよう指導されていますが、杖がなくても普通に歩けるまでに回復されていました。

つい最近まで、備前市立日生病院で歩くりハビリをしていたそうですが、今は自宅で日常生活（食事のしたくや洗濯、掃除も自分でしている）をしながらリハビリを兼ねて自宅療養をしています。

手術の事、入院生活の事、退院してからは毎週ヘルパーさんに自宅に来てもらって、楽しく食事の指導を得ているなどいろいろ話を話してくださいましたが、1年以上にもおよぶリハビリは辛く何度も泣いたそうです。私はがんばり屋さん（南さん）に直接に会えて活力をいただきました。備前市立日生病院の整形外科のお医者さんからは、今度骨折したら治せないからと脅かされているそうです。

約1時間30分ほど懇談し、お医者さんとの約束をしっかりと守って、また交流会等で元気な姿を見せてくださいと約束し、お別れしました。

